

日韓市民ネットワーク・なごや

会報 No.31

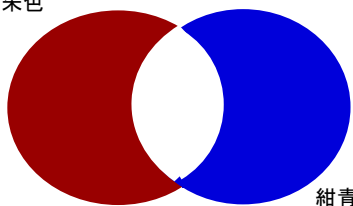
2005-11-19

일한 시민 네트워크・나고야

Home Page : <http://www.nikkannet.jp/>

発行者：後藤 和晃
〒483-8037 愛知県江南市勝佐町東郷 238
TEL/FAX 0587-56-6788

朱色



目次

- | | |
|----------------|-----------|
| 1. 巻頭特別寄稿 | 石原 俊洋さん |
| 2. 事務局通信 | 統括幹事：後藤和晃 |
| 3. ニュース | 事務局 |
| 4. 会の活動報告とお知らせ | 事務局 |
| 5. 会の行事参加者の声 | 参加者の皆さん |
| 6. 会員の広場 | 会員の皆さん |
| 7. ソウル便り | 二日市 壮さん |

巻頭特別寄稿

◎ 思い出の万博 ————— 石原 俊洋 (中日新聞万博70周年企画室次長)

今「万博」と言えば、皆さんはもちろん愛・地球博（愛知万博）のことを思い浮かべることでしょ
うね。そう、1970年開催の大阪万博

でもない、まぎれもなく当地で今年3月から9月までの185日間にわたって開かれ、当初予想の1
500万人を大幅に上回る2200余万人の来場で大成功といわれる国際博覧会のことですよ！

後ほど、愛・地球博と深く関わり合ったことでの話題に触れますが、私にとっての万博は1993
年8月7日から11月7日まで開かれた韓国・大田万博にさかのぼります。

当時、ソウル特派員として何度も取材した思い出がありますし、皆さんにとっても、この万博を契
機に、日本人の韓国訪問時の短期ビザは免除となったので恩恵を得た方々も多いのでは？1週間前後
の韓国旅行はこうしてビザ不要となり、実にたくさんの友人、知人が気軽にやって来ては、万博見学
とともに隣国の素顔を楽しんでいきました。

ソウルから特急列車セマウル号に乗って万博会場のある韓国中部の街、大田市へ向かうルートが専
らでした。ソウル・漢江の河川敷から現地へ飛ぶヘリコプター直行便もありました。北朝鮮と対峙す
る雰囲気強い時代で、ソウル上空から南北軍事境界線もすぐのため、一般利用のヘリコプター登場
は初めてであり驚きでした。さっそく搭乗し、低高度を飛んでの韓国遊覧を味わいましたが、次々に
越える山々のあちこちには韓国軍の基地が見えてとれ、厳しい国情を察したものです。

愛知県知事だった鈴木礼治氏が団長となった2005年万博の日本誘致を求める一行とも出会いま
した。会場内でアピールを済ませ、夕方のセレモニーまで時間があるという鈴木氏を「当地ならでは
の北朝鮮館を訪ねませんか？」と誘い出しました。南北朝鮮の融和を祈念した出展館で、白頭山地域
の立派な大型模型などがあり、それなりに見応えたっぶり。鈴木氏も気に入ったようで、帰り際には
北朝鮮産の焼酎などを買い求めていました。

こうした記憶のなか、愛・地球博では巡り巡って、中日新聞社などが出展したパビリオン「夢みる
山」の館長代理を兼ねた事務局長という大役をいただきました。一般の来場者とは違う観点で、苦楽
とともに巨大イベントを見詰めることができ、幸せでした。

開幕前の予想だと、「韓国からのお客様が大量するので」とのこと。私どものパビリオンでも、ソウ
ル暮らし4年の実績を買われた私をはじめ、韓国語が達者というアテンダント嬢も選んで配しました。

しかし会期が始まると、日韓両国の懸案事項を背景に「韓国人の万博訪問意欲をそいだ」と言われるなどして、韓国からの万博特需は期待ほどのことはありませんでした。

さて最近入手した万博資料によると、全来場者のうち全外国人は10億と見られていましたが、実際はその半分の5億ほど。それでも、この数字は昨年、愛知県を訪れた外国人数の3～6倍といい、万博効果があった証拠でしょう。さらに、万博期間中の国別の来場者調査（旅行者と日本居住者を含む）だと1日当たり、1位は台湾で1000余人（旅行者がほとんど）。次いで韓国の約890人（うち留学などでの日本居住約170人）そして3位米国約730人（同約180人）4位中国約620人（同約60人）そして5位オーストラリア230人（同約50人）という順でした。

韓国人だけを取り上げても、開催185日間の期間中ずっと16万人の来場です。また、ソウルの大手旅行社が買い上げた万博前売り券数万枚は自国でさばききれなかったものの、万博人気が発火して入場券が足りなかった台湾へ回り、役だったそうです。

それになりに、隣人たちは来てくれていたのです。

◇ 事務局通信

事務局 統括幹事：後藤和晃

（１）友情の絆を育んだ旅 ～ 韓の国・仏が来た道紀行を終えて ～

10月17日（月）、旅行の最終日、私たちのバスはソウルから仁川空港に向けてひた走っていました。

4日間、同行してくれたガイドのキム・ヒャンジャ（金香子）さんがマイクを口に当て、おもむろに話しはじめました。

「まもなくお別れとなりますが、私は皆さんの事は決して忘れません。こんなに韓国人以上に韓国の歴史や文化に詳しく、韓国の人々を理解し愛してくれる日本人の団体に会ったことはありません。

私は旅行中、ガイドとして皆さんにいろいろお話する立場だったのに、むしろ仏教のことも歴史のことも皆さんから逆に教えられました。恥ずかしい！これではいけない。もっと自分の国、韓国の歴史や文化を勉強しなければならないと思いました。

今度、お会いする時には皆さんにいろいろお話できるよう、しっかり勉強しておきます。ぜひ、また韓国にお越しください！」

彼女の表情は真剣そのもので、営業用のものではないことは確かでした。一斉に盛大な拍手が湧きました。そして会員たちが彼女に次々と声をかけました。

「いやあ、あんたも立派だったよ。バスの中で話してくれたこと、なかなか説得力があったよ」

「政治や経済、社会を見る視点がしっかりしていて、いろいろ教えてもらったな。日本のガイドには、あんたの爪のアカを飲ませてやりたいね！」

「今度、またバス旅行する時は、ぜひこのキムさんに案内してもらいましょうよ！」

心地よい共感のやりとりでした。最後の日にこうした会話が成り立ったことは嬉しい限りでした。実は、この会話のキャッチボールの前に、こんな嬉しい出来事もありました。私が、ちょっと後ろを振り返った時、近くに座っていた岩下洋子さんの顔が少し涙顔になっているように見えたのです。「なにか、あったんですか？」と訊ねた私に彼女はこんな言葉を返してくれたのでした。

「こんどの旅行に参加できたのが嬉しくてつい、嬉し涙が出てきてしまったんですよ！」「私、本当に初めての韓国の旅で、いろいろ不安もあったのに会の人たちが毎日、何くれとなく気を配ってくれて夢のような旅だったんです…」

「韓国の人たちも皆、すごく良い人たちで昔からの知りあいのように…」

岩下さんは、きっと少女時代そのままの新鮮な感性を持ち続けている人なのでしょう。

キムさんや岩下さんのエピソードから今回の旅行の雰囲気を感じていただけたのではないのでしょうか？

いうまでもなく、韓国側の参加者の光州の姜幸玉 YMCA 副理事長や大邱在住で韓日親善交流会長の徐

彰教さんらのたくまざる人柄や素晴らしい日本語会話力によるところも大きかったと言えます。

お2人との語らいは旅行の楽しさを2倍にも3倍にもしてくれるものでした。

今回の旅は日韓双方の友情の絆や会員同志の信頼の絆を今までよりはるかに強くしてくれたと思います。

参加していただいた全ての皆さんに心から感謝申し上げます。

(参加者の感想文は9ページから記載)

(2)「留学生を励ます交流の夕べ」ご参加を！

～ 12月18日(日) 名古屋韓国学校 ～

この交流の夕べの開催に関する詳しい情報は、9ページに掲載していますが、「名古屋地域の各大学に留学中の韓国人学生との対話・交流を楽しもう！」というねらいで、毎年行っているものです。

この催しは、会の結成当時、知りあった韓国人留学生たちが帰国に際し「残念ですが大学内で親しくしてくれた日本人学生はいませんでしたし、まして一般の市民と交流する機会もなかったです」と嘆いたことをきっかけに始めたものです。

7～8年前と比べると、韓流ブームもあり留学生をとりまく環境も様変わりしていると考える人も多いでしょうが、実態は大きな変化はないようです。今でも「日本人の市民と言葉を交わすと言っても、韓国料理屋やコンビニでのアルバイトで注文を取る時だけ！」というのが現実のようです。

新旧を問わず会員の皆さんは、ぜひご出席いただき、留学生との対話を楽しんだり、会員同志の交流を深めるようお願いします。留学生たちは日本語も上手ですし、韓国ドラマや映画、それに韓国の名所、食べ物の話など、いろいろ情報も持っています。気楽な会話を交わすようお願いします。

この交流の夕べのもう一つの楽しみは、幹事の中川修介さんがにぎる美味しい生寿司です。氏は名古屋で20年近くも前に回転寿司チェーンを初めて展開したという元プロです。昔の顔を生かして魚市場でマグロを購入し、自分で解体し、握るのですから、まさしくプロの味を安く提供できるわけです。ことしは魅力の生寿司に加え、ソウルで一年間、トッポッキを修行してきた竹中志保美さんが、その成果を披露してくれます。

日韓の味を一度に楽しめますので、大いに期待してください。

交流の夕べへの出欠などをお答えいただくハガキを同封しますので、

11月中に必ず投函するようお願いします。

若干の寄付をお願いします

～ 交流の夕べおよび学生訪問団の韓国派遣 ～

- 「交流の夕べ」には留学生をなるべく多く呼び込みたいと思います。参加感を強めてもらうため最小限の参加費を払ってもらうつもりですが、会員の寄付金で、それを可能な限り安くしたいと思います。
- 来年（06年）の2月に、恒例により名古屋周辺の大学生を韓国・光州に交流のため派遣したいと考えています。光州 YMCA との間ではすでに3回、大学生の相互訪問を行っています。今回も旅行費の一部を会で負担する形で、たとえ少数となっても派遣したいと考えています。
- 寄付は会員の皆さんに広くうすく負担してほしい（1,000円、2,000円でも大歓迎）というのが会の方針です。御協力いただける方は、同封の振り込み用紙で郵便局から参加費とあわせて11月末までにお振り込みください。また寄付はしないものの交流の夕べに参加する方も振り込みをお願いします。



このページは、新聞や雑誌あるいはホームページなど、当会に関係があるニュースを掲載しています。皆さんが、お気づきになったニュースがあればお知らせください。

○ 東京大学情報環教授 姜尚中氏 講演会

演題「日韓、その未来の形」

日韓が過去の問題を解決するためにも、未来に向けた共同のプロジェクトを分かち合うことが必要である点を力説される。

2005年12月3日（土） OPEN：13：30 START：14：00

場所：桑名市民会館（桑名市中央町三丁目20 TEL. 0594-22-8511）

民団三重HP（<http://www.searchnavi.com/~hp/mindanmie/>）から、申し込み出来ます。

姜尚中氏プロフィール

1950年、熊本県熊本市に生まれる。早稲田大学大学院政治学研究科博士課程修了。ドイツ、エアランゲン大学に留学の後、国際基督教大学準教授などを経て、東京大学大学院情報学環教授。専攻は政治学、政治思想学。テレビ・新聞・雑誌などでも幅広く活躍中。著書には「マックス・ウェーバーと近代」「オリエンタリズムの彼方へ」（以上、岩波現代文庫）、「東北アジア共同の家をめざして」（平凡社）、「日朝関係の克服」（集英社新書）、「デモクラシーの冒険」（共著・集英社新書）、「在日からの手紙」（共著・太田出版）、「挑発する知」（共著・双風舎）、「在日」（講談社）、「愛国心」「戦争の世紀を超えて」（以上、共著・講談社）などがある。

◇ 会の活動報告とお知らせ

1. 報告

1) 豊山町で「韓国理解講座」を実施！ ————— 日韓市民ネットワークなごや事務局

イチローの故郷として知られる豊山町では、毎年国際化への一環として“ワールド見聞録”という講座を開いています。内容は世界各国のくらしや文化の特徴を分かりやすく町民に知らせようとするものです。今回は冬ソナブーム以来、関心が高い韓国について講座を組みたいとの依頼を受け日韓市民ネットワークがコーディネートを行いました。5月から9月まで月1回ずつ計5回行った講座の概要をお知らせします。

第一回 5月18日(水)「韓国と日本～その歴史的係わり」

後藤統括幹事が担当。主に古代の韓国と日本が想像を越えて密接な関係だったことを中心に話を進めました。ここ 20～30 年来の歴史学、考古学、民俗学、遺伝子学など様々な研究の成果から、古代朝鮮の南部と九州や中国地方を中心とする古代日本(倭)とが一時は、ほとんど共通した文化圏であり、文化の流れは大陸から日本へと流れていたとのことでした。当然、渡来者も数多く、その痕跡は日本各地の地名や人名、古墳からの出土物、日本語の文法や数々の語彙、さらに多彩な信仰の形態にも見られるとのことでした。また豊山にも“百済木川”という地名があり、これは百済系の人々が渡来し定住した可能性を示すものとも指摘、参加者からは「目からウロコが落ちた!」との声もありました。

ただし、大陸文化の圧倒的な影響下にあった古代日本も聖徳太子や天武天皇以下先駆者たちの力で独自の大和文化を急速に育て上げ、その結果、誇らしい大和民族国家が確立されたと強調。最後に韓半島の人々とは千数百年前には血を分けあうような関係だったことを忘れないようにしたいと話していました。

第二回 6月8日(水)「ダイナミック韓国～経済～」

担当は、本会顧問のイ・サンフン(李尚勲)氏。韓国経済の成長の経過や特徴について詳しい話がありました。90 年代末期には経済がどん底状態になり、「IMF 旋風」が吹き荒れたものの、一部企業(半導体のサムスン、製鉄のポスコ、自動車の現代など)は、トップの素早い判断と G0 指令のもと躍進を続け、世界的企業へとひた走っているとのことでした。

韓国経済がかかえる構造的問題を卒直に指摘する一方、会社の組織の中から、中間管理職を極力排除し、上司の意思が末端の職員まで直接伝えられる効率的で戦闘的な体制を敷いている話までいずれも参加者の強い関心を引いていました。

第三回 7月13日(水)「魅力の韓国映画と音楽」

シネマスコーレのイ・サンミ(李相美)さんの担当。イさんによれば韓国映画の本流は人と人との運命的なしがらみを徹底的に描くものだったといいます。しかし最近は動きの激しいものが多く、これは観客の好みを意識しすぎているのだそう。俳優は映画一筋でテレビに出ないため日本で知られていない大物俳優が多いとか、ペ・ヨンジョンやイ・ビョンホンだけではないことを強調されました。これから注目したい俳優は、ソル・ギョング(力道山)、チョ・スンウン(マラソン)イ・ジョンジェ(僕の彼女を紹介します)香港映画で大受けしたチョン・ウソン、そして、ブラザーフッドのチャン・ドンゴンとウォンビンだといいます。

また韓国では、国が映画学校や撮影所、編集施設を運営し、国家戦略として映画の振興を図って、大成果を上げているといいます。日本の文化政策担当者に聞かせたいような興味深い話でした。

第四回 8月5日(金)「食の国・韓国を知る」

担当は春日井市で韓国語や料理を教えているユ・ジュヨプ(柳舟葉)さん。キムパプ(海苔巻き)、チヂミ、野菜の和え物の三品を皆で作りました。

女性が多い生徒たちは先生の実演を見てそれぞれが、見事にキムパプやチヂミ、和え物を仕上げていきます。実はこの日は恐ろしい雷雨のため予定より 30 分遅れて始まったのですが、参加者たちは、1 時間で無事、料理を終えました。

仕上げた料理は当然、全員が試食、全員「思ったより、うまくできた! 家庭のメニューが増えた!」と大喜びでした。

第五回 9月14日(水)「韓国の若者たちは今」

最終回は前留学生会長のイ・スンフン（李昇勲）君の担当で、自身の体験をまじえながらの説得力のある話でした。

まず取り上げたのが韓国の過熱気味の受験事情でした。小学生から高校生までガリ勉の子は3食の弁当を持って学校に行くそうです。3食目は学校の図書館で夜遅く食べることになり高校生が家に帰るのは午前1時から2時ごろになるのも珍しくないとのこと。

また小学校から英語やピアノ、バレエなど多彩な塾に通うことも流行しており、学歴や各種の能力は親の収入に比例してくるとの深刻な話もありました。

中学や高校で習う歴史の教科書は2冊からなり、2冊目の内容は、日本による朝鮮の併合などいわゆる「日帝時代」の受難の歴史がほとんどとの事です。日本の生徒が日本による朝鮮統治をほとんど学ばないのに比べ、何百倍もの分量を学ぶ韓国側。こうした学習ギャップから「今の日本人は韓国・朝鮮に与えた苦痛を全く知らない」という声が韓国の若者の間にあることがよくわかりました。

さらに20才ごろに男子は2年間の軍隊に行かねばならず、ここでほとんどの恋人関係がジ・エンドになるなど日本では全く考えられない話もあり、参加者たちは「もっと韓国を知らなければ!」と話していました。

※会ではこうした韓国理解講座をいろいろな自治体で取り上げてもらいたいと考えています。もし皆さんの町の生涯学習の担当者をご存知であれば、このような会の活動を紹介していただけたらと思います。

2) ワールドコラボフェスタ _____ 事務局

10月16日(日)名古屋市栄・もちの木広場にてワールドコラボフェスタ2005が開催されました。当会も例年通りブースを出しました。同じ日に会の重鎮達の多くが韓国出張(?)中という非常事態、残ったメンバーの活躍が期待されました。

ブースの場所も今年は良い場所でした。入口の韓流スターの写真のおかげで千客万来。当会会員の作る自慢のチヂミはアツという間に完売し、韓国観光公社から頂いた韓国旅行のガイドブックも大量に捌けました。また、メルマガ購読の申し込みも予想以上に多くの皆様にいただきました。

3) 裏木曾・留学生キャンプ _____ 留学生会会長 ペ・ジュノ

2005年の夏(9月10日~11日)開かれた日韓ネットワークと韓国留学生との交流キャンプは、私にとって、ただの旅行ではなく様々な思い出をプレゼントしてくれた意味深い旅でありました。

参加してくれた学生さんの人数が少なかったのですが、美しい山ときれいな谷間の水に恵まれた場所で、人情溢れるキャンプ場の人々と過ごした一泊は、それまで学校の論文についてのストレスや他国での一人暮らしの寂しさなどがたまって息苦しかった都市人の姿から解放させてくれ、戻っても、余裕を持って気ままに生活することができる勇気や自信を与えてくれました。

また、夕食の時に食べた超美味しいイノシシの肉やカレー、味噌汁などは前の元気な自分に戻らせてくれ、日韓ネットワークの人々と話し合った際の日常の話題は僕の常識をもっと増やしてくれました。帰る日、このようにいい機会があるのに、ほとんどの留学生が知らないまま参加していない状況について、今年の留学生の会長としての職務怠慢を反省しながら来年日韓ネットワークと留学生との交流が一層発展できるように頑張ろうと思いました。

最後に、一泊キャンプのために尽力された会員の皆さんと、ご自分の山荘を全面的に開放していただいた三尾さん、ご夫婦に心から感謝します。

4) 「野遊会」 _____ 参加者の感想文

○ シニア望郷野遊会に参加して _____ 会員:大久保 舜司

去る11月3日文化の日に、犬山入鹿池の八曾キャンプ場で、韓国の風習である野遊会（ヤユフエ）を、やってみました。

敗戦によって朝鮮半島を追われ、引き揚げた私どもを慰労して下さるという意義深い、そして私も日本に生まれ故郷をもたない者同志が望郷の思いを語り合おうと言う懐かしい会合でもありました。果せるかな韓国大田生まれ5人のほか、光州、木浦出身の日韓関係者数人、奉仕の方々数人、と言うメンバーで賑やかに、時間を忘れての楽しい会合となりました。

特に私は平素、揃って顔を合わせる事もない兄弟3人が参加して、懐かしい大田の山や川で遊んだ少年の日に帰って、語り合う事が出来た事は望外の幸せでした。

この日、思いがけない出来事がありました。江南の辻さんの実家は大田の大きな醸造屋さんでした。辻さんは引き揚げの時、「お母さんが韓国人の番頭の李さんの夫人に形見として自分の大切な鏡台を贈った」と言うお話をされたのです。

ところが、恵那から参加された太田道子さんが、なんと、その李夫人と20年前に光州で会ったことがある—と言うのです。そして太田さんは、その鏡台の事を聞き、当時京都に居られた辻さんのお母さんをわざわざ訪ねて会い、鏡を贈った気持ちを聞いたと話されました。

辻さんは「自分の母と太田さんがそのような出会いをしていたのか!？」と感動の余り、しばし絶句されていました。

この会合がなかったら、辻さんも太田さんも、こうした御縁に気づかれる事もなかっただろうと、私も側にいて深い感動を覚えました。

御馳走はおでんに豚汁、焼肉と盛り沢山で、森とせせらぎの中で、頂く美味しさは又格別でした。ご奉仕の皆さんへ紙上をかりて心からお礼を申し上げます。

※事務局から——大久保舜司さんが全員の拍手で望郷野遊会の会長に選ばれました。

○ 野遊会 ————— 会員：鈴木 一字

11月3日（祝）犬山市入鹿池奥 八曾（はっそう）キャンプ場でおこなわれたシニア望郷野遊会に参加させていただきました。参加者は、戦前の韓国の大田、光州に生まれ、敗戦で帰国されたシニア会員を中心とした18名のみなさんです。

朝から曇り、うすら寒い天気でしたが、野趣に富んだキャンプ場で、秋の昼下がり参会者一同、和気藹々と談笑のひとつきをもつことができました。牛、猪、野菜のバーベキュー、宮崎さんが丹精をこめられたオデン等がとても美味で好評でした。

私は以前このHPで参会者の大久保舜司さん、瀬尾文子さん、金龍鐘さんの随筆を読ませていただき、それぞれに大変感銘をうけました。この三人のみなさん、それに大田におられた池田進さん、辻醇さんにも直接お会いし、歴史の生き証人としての貴重なお話を伺うことができ、とてもありがたく思いました。

またこのような楽しく有意義な会を企画された後藤さん、会を準備万端整えられた宮崎さん、間宮さん等にお礼を申し上げます。

※この行事にあたって金龍鐘さんから7,000円の寄付がありました。

2.お知らせ

留学生を励ます日韓“学生・市民”交流の夕べ

日 時 12月18日（日） 午後5:00～7:30

場 所 名古屋韓国学校

中村区井深町16-54

TEL052-452-0321

※地下鉄東山線亀島駅下車2番出口から北西方向へ2分

参加費 成人3,500円 大学生・高校生2,000円 中学生・小学生1,000円

（幼稚園保育所など未就学児は無料）

※振替用紙で郵便局から 11 月中に事前振り込みをお願いします。
出欠確認 同封のハガキで出欠を 11 月中にお知らせください。
※お菓子やお酒、現金など寄付していただける方は、その旨お書きください。

大勢の会員の御参加をお願いします！

新会員紹介

前回の会報編集以降に入会された方で、11 月 10 日までに受付完了されている方々です。(敬称略)

平松久仁子	鈴木幸之助	市川 延江
小出宣昭	坂野慎治	鄭 義勲

「韓の国・仏が来た道」紀行 —— 参加者の感想文

「韓の国・仏が来た道」紀行 ・ 旅程表

1	10/14 (金)	セントレア空港 ～ 仁川空港 ～ (瑞山 I・C) ～ 瑞山三尊石仏 ～ 修徳寺 ～ 霊光 ～ ホテル (アリアホテル：霊光郡霊光邑緑沙里8)
2	10/15 (土)	ホテル ～ 法聖浦 ～ 内山書院 ～ 佛甲寺 ～ (霊光 IC) ～ (東群山 IC) ～ 弥勒寺跡 ～ 灌燭寺 ～ 扶余・宮南池 ～ ホテル (三井扶余ユース：扶余郡扶余邑旧校里 105-1)
3	10/16 (日)	ホテル ～ 百済王陵苑 ～ 扶蘇山(落花岩)・・・皐蘭寺・・・(船)・・・クドゥレ公園 ～ 定林寺(昼食)～ 甲寺 ～ 東鶴寺 ～ (高速)～ホテル(ソウルホテル：ソウル市鐘路区清進洞92)
4	10/17 (月)	ホテル(徒歩にて)・・・曹溪寺・・・国立民俗博物館 ・ 景福宮・・・(土俗村にて昼食)自由行動(清溪川など) ～ ホテル ～ 仁川空港 ～ セントレア空港着、解散

○ 仏が来た道・愛日愛韓の道 —— 会員：伊藤義郎

セントレアを出発する時から秋晴れの天気、仁川国際空港から南下する時も暑さを感じる。バスの中から見る郊外の景色は、黄金色に稔った稲田である。昨日まで見ていた家の近くの田圃であり、飛鳥あたりで見られる里山風景である。違和感もなく日本のどこかを走っているようだ。

まず、今回の旅の超目玉ともいわれる「瑞山三尊石仏」を訪ねた。「この磨崖仏を拝めたら、もう日本に帰ってもいい」とのたまう仏像専門家もおられる程のものらしい。飛鳥仏のルーツといわれ、韓国最古の磨崖仏と聞くと見る目も真剣になる。

説明してくれる人のハングルは全くわからないが、長い竿の先につけた傘つき電球をゆっくり下から上へ、上から下へ移動させると中央の釈迦如来立像の表情というより「笑み」が次々と変わる。太陽の光線の動きによって笑みが変わるのである。

「百済の微笑仏」と称せられるだけあって、何ともいえない優しさと親しみがある。日本で見える仏像は鼻筋の通った顔であるが、こちらは胡坐(あぐら)をかいたような鼻であり、口唇も少し厚い。よく見かけるような庶民のお顔である。

この磨崖仏のある所まで登ってくるのに、かなり険しい山道を登らないといけない。雨でも降ったら、登るにも下るにも余程注意しないと足を滑らせたりする危険がある。

修行僧がこの磨崖仏の前で修行したり、土地の人々の信仰の拠り所になっていたのではないだろう

か。私は飛鳥の仏像をみる時、必ずこの「瑞山三尊石仏」を思い浮かべるだろう。

百済仏教伝来の地、法聖浦は漁師町のはずれであった。インドの僧マラナンダがAD384年に山東半島から、黄海を渡ってこの入江の畔に着いたという。

今それを記念して立派な施設が造られている。いずれ観光地となりそうである。仏教が百済に入って百五十年後、聖明王が日本に釈迦仏の金銅像一体と経綸を贈った。AD538年（一説552年）のことである。

今春、この“ネットワークなごや”で辿った「山の辺の道」の海拓榴市（つばいち）近く、初瀬川べりに、日本「仏教伝来之地」の碑が立っていたのを思い出す。百済から海を渡り、瀬戸内海を経て、難波から大和川（初瀬川）を遡って着いたのである。

法聖浦に着いた僧マラナンダは、百済に初めて仏教の寺「仏甲寺」を開く。私達はこの寺のオンドルがきいた方丈で満堂住職からこの寺の由緒などを聞く。住職自らが入れてくれた煎茶がおいしかった。心身ともにしばしの寛ぎを感じたのが忘れられない。あとから気づいたのだが、住職の名刺にはこの仏甲寺は曹溪宗となっている。我々が旅の最後の日、ソウル市内で訪ねたのが曹溪寺である。私が説明を聞き漏らしたのかも知れないが、この二つの寺は深い縁があるに違いない。

今回の旅行では、「韓日親善交流会」会長の徐彰教さん、「学古山房」の尹洪植さん「光州YMCA副理事長」の姜幸玉さん達から、上手な日本語で、場所場所での説明をはじめ、食事の時など和気藹藹（あいあい）の中で日韓のことが聞けたのは本当によかった。

特に徐さんは同じ年齢である私に“同期の桜”と呼んでは、もう十年の知己のように親しんでくれる。徐さんも尹さんも、自分達は“愛日家”といわれたのに対し、我々は“愛韓家”と応えた。日韓交流を実感した一時だった。

ガイドの金香子さんの説明、解説も一般の観光ではなかなか聞けないような韓国の現状や世相の話が面白かった。日本にも韓国人旅行者を連れて行っている所以で日本の実情にも詳しい。韓国の少子化問題を心配し、子供の教育に力を入れる母親の苦労話、又、日本の高校生など若者をみて、日本の将来を心配してくれる彼女も愛日家であった。

この愛日家の方々に加え、後藤さん、宮崎さん、武井さんからも要所要所でこまかい説明が聞けたのも、このツアーならではの感謝の気持ちで一杯です。又、同室のドクター長澤さんから「万葉集」の恋の歌や、イタリア在住の女流作家塩野七生の話など高説を伺うことができたのも収穫でした。とにかくこのグループには、夫々の分野で一家を成すことができそうな人達や、そうでなくても熱心に学ぼうとする人達ばかりで話題も豊富、得ることの多い楽しい旅でした。

最後にこの旅で、裏方のように会計の大役を担当していただいた伊藤みつ子さんにも心から御礼申し上げます。

○ 「韓の国・仏が来た道」 見聞記 ————— 会員: 安田 守

今回も後藤さんと宮崎さんが準備して下さった立派な企画と詳しい資料で、十分な予備知識を持っていた旅だった。

4日間で見物出来た数多くの寺院、仏像、石塔、史跡など、みな見応えのあるものばかりだったが、特に印象に残ったものの中に、百済の微笑^{ホホエミ}とも言われている瑞山^{ソサン}の弥勒三尊磨崖佛があった。中心の仏はふっくらと優しいお顔をした弥勒佛で、光線の当たり具合で表情が大きく変わり、微笑まれたお顔を見た時はこちらの顔も思わずにっこりとなり、魂を吸い取られる様な感じがした。

また、灌燭^{カンチョクサ}寺の弥勒佛は高さが18mもある三頭身の石像で、地中からによきによきと出て来られたとのこと。宮崎さんの説明を聞いて異常に頭が大きい三頭身の理由も理解出来、決して醜いという感じではなく、バランスの取れた見事な像だと思った。

その他、私にとって初めて見聞きするものが多くて、日本文化の原点となった百済文化の素晴らしさに、今更の様に感動の連続だった。

ところで今回も多くが地方の町を、ガイドの金^{キムヒャンジャ}香子さんの説明を聞きながらのバスの旅であったが、緑いっぱいの山々を眺め西に沈む太陽が雲に映えて、えも言われぬ風景に見惚れていると、ふとその昔に初めて韓国の地を踏んだ時の事を思い出した。

当時の山々の多くは赤茶けた山肌をむき出しにしていた。そして大勢の人達がセマウル運動(新しい村おこし運動)の旗の下、植林にいそしむ姿があちこちで見られた。その時既に高度成長期が終わっていた日本では見られなくなったが、田植えは子供の姿も混じった人海作戦が見られたし、工事現場では背中の背負子に生コンを入れて運んでいた。町かどでは朝早く、おばさん達がオンドルで使った練炭の燃えカスを道路の端へ山のように積み上げていた。

それが僅かな年月で日本を追い越すぐらいの勢いで発展し、林立するマンションは温水床暖房が完備され、田圃ではコンバインが活躍し、ソウル・仁川空港間では2007年完成を目指して新規に鉄道も敷設していた。

仏教がインドの僧マラナンタによって初めて朝鮮に上陸した地、法^{ボブソンボ}聖浦では此処を新しい観光地にすべく大きな施設も建設中であったし、ソウルの景^{キョンボククン}福宮の中にあった当時の朝鮮総督府で、代理石造りの立派な博物館も今は無く、その跡に興^{フンネムン}禮門と言う見事な建物が復元されていた。この様に観光面に於いても相当な力の入れ方で、そのバイタリティーには感心させられた。

もう一つ驚いたのは、ソウルの中心地、南大門近くのビルの谷間に忽然として綺麗な清^{チョンゲチョン}溪川の清流が出現していた事だった。昔あった川は日本と同じように都市が発展するに従って蓋されて道路に変わり、その上に高架の道路まで走っていたが、その上下二本の道路を撤去して川を復元したと言うのだ。ここに住む人や道路を利用していた人達の猛反対に対しても誠意を持って説得し、我々が行く直前の10月1日に漢^{ハンガン}江の水を引いて通水を始めたそうである。山間のせせらぎを思わせる様な所も作っており、時には魚も遡上して来る様だ。その川辺を大勢の市民や観光客達が楽しそうにそぞろ歩きしており、この計画を大成功に導いたソウル市長のアイデア、センス、勇気と英断には感服させられた。

又、韓国KBSの二日市さんが、“韓国の人の多くは日本人に大変親しみを持っていて、日本人を好きになろうとしている。しかし日本政府に対してはそうではない。”という意味のことを話された。それを聞きながら、以前に公^{コンジュ}州のあるお寺で集団生活しながら余生を送っていた元従軍慰安婦のハルモニ達を尋ねて行ったとき、同じ様な事を言われたのを思い出した。

そして現地でお会した尹^{ユンホンシク}洪植さんの“自分は親日家ではない、愛日家だ”の言葉に心温まる思いをしていたが、帰りの飛行機の中では「小泉総理が今日、靖国神社へ参拝した」とのニュースを聞かされて、複雑な思いになった。以上の様に今度の旅も、何時もの事ながら大変刺激が多く、楽しく勉強が出来た旅行となり大満足であった。

最後にこの旅行に携わられたスタッフの方々のご努力とメンバーの方々のご親切に対して、心から感謝申しあげる次第である。

○ 私の初めての韓国の旅 ————— 会員:岩下洋子

昨年より長澤先生の紹介でこの会に入れていただき今回の旅行を本当に楽しみに迎えました。13日の夜は子供の頃の遠足の前日の様に全然寝られなくて朝を迎えました。思えば昨年の四月頃より韓流のドラマブームで私も韓国に憧れて行ってみたいと思っていました。そんな矢先、日韓市民ネットワーク・なごやの方々に奈良の山の辺の道につれて行っていただいたので

すが、この小旅行がこの度の韓国旅行の序曲となりました。

小学生の頃より日本の歴史が好きだった私は、山の辺の道を歩きながら、古代の歴史を詳しく説明していただき、古代人のロマンを強く感じました。又仏教が初めて伝来した所へも行きました。そこで3人の女性が最初に百済にわたり、扶余の寺で仏教の勉強にいそしんだ話を聞き、日本で初めての僧が女性だった事にすごく感動しました。その三人の女性が日本に帰って仏教を広めようとしていた矢先、崇仏派の蘇我氏と排仏派の物部氏との抗争に巻き込まれ、死ぬほどの辱めを受けたと知り、ショックを受けました。

それは崇仏派の蘇我氏が天皇の許しを得て、仏像を自らの館に置き、拝んでいたところ、巷に疫病が流行し、「崇仏をやめ、仏を流れて捨てよ！」と命令された際の悲劇でした。この時、排仏派の物部氏が布教をやめさせるチャンスと三人の尼僧を裸にして縛り上げ町角でさらしものにしたというのです。この話を聞いた時には、怒りで足が震える思いがしたものです。先駆者は民衆に理解されにくいのだと思いました。

今度の韓国旅行でその三人の女性が修行したお寺にも行く事が出来ました。この他にも百済仏教の文化遺産に次々と巡り会えました。瑞山三尊石仏の笑顔、弥勒寺の塔、灌燭寺の顔の大きな弥勒様のお顔、定林寺の五層石塔、これは見る角度によりいろいろ変化のある塔でした。東鶴寺、甲寺本当に山の中にあり良く歩きました。現地で一緒に歩いて下さった韓国の一流の方々、そして日本から同行した方々の仏にまつわる奥深い話を聞き本当に感謝で一杯です。

私たちは、文化大恩の国韓国を理解してないことが多々あるのではないのでしょうか。日本の教科書は通り一辺の事実しか書いてないことにも気がつきました。私も本を読んだり、ドラマを見たりしていろいろの事知らなければいけないと思いました。ネットワーク・なごやの方々のグループに入れていただいた以上、行事には用事のないかぎり参加させていただきたいと思います。この旅行でいただいた感動を皆に伝え仲の良い国になることを祈っていきます。これからもよろしくお願いします。

○ 仏が来た道吟行記 ————— 会員：鈴木幸之助

10年程前から、思うことがあって旅先では全く写真を撮らなくなった。その代わり俳人や歌人の気分になって、気促に俳句や短歌を作って旅を楽しんでいる。ただ、今回の旅では、会員諸氏の細部に及ぶ観察や基礎知識に基づく鑑賞の仕方にただただ感心し、旅情に浸るだけの気促な習性を反省するばかりであった。

仏教については、教義や歴史や美術などにも関心は持っていたが、基礎知識があまりにも狭くて浅いことが分かり、道中ではもっぱら俳句やら川柳ともつかぬ雑句を作っていた。後藤さんから会員資格なしといわれることを覚悟しながら、その内の幾つかを書き並べた。ご笑覧のほどを。

秋の陽を 透かして拝む 磨崖仏
靈光の 月青くして 闇深し
秋の潮 干潟の船を 陸に揚げ
狭霧消え 法輪の石碑 光り居り
硝煙を 秘めて石塔 秋うらら
弥勒様 刈穂の里に 笑みて立ち
朝霧に 女官の靈気 漂えり
御点前に 秋の日も座す 御堂かな
渡来した 朱子学の里 菊香あり
秋麗の 峰に臥したる 鶏龍神
アケビ売る 老婆のポーズ 半か思惟
カバン屋が バイアグラ売る 大市場
豚足も 鶏足もある 大市場

(瑞山の三尊石仏のお堂にて)
(靈光のアリアホテルの前庭にて)
(法聖浦の漁村にて)
(仏甲寺境内にて)
(弥勒寺跡にて)
(灌燭寺境内にて)
(扶蘇山の落花岩展望台にて)
(定林寺の御堂にて)
(内山書院の前庭にて)
(東鶴寺境内にて)
(甲寺の参道にて)
(ソウルの大南門市場にて)

○ 愛日・愛韓 ネットワーク・サランヘヨ！

5年ぶりに皆様とご一緒できた韓国。現地手配を当社で請け賜ったので半分は仕事のはずが、うれしさの余り有頂天になって過ごした4日間でした。2日目、旅程外でしたが、光州の姜幸玉（カンヘンオク）先生のご提案で、慶長の役の頃、捕らわれて来日され儒教・朱子学を日本に広めた、姜沆（カンハン）の生誕地・内山書院も訪ねてきました。その後の佛甲寺では、住持・満堂先生が書齋に招いてくださり、韓国茶道の接待をお受けしながら、インドの摩羅難陀（マラナンダ）が仏教を伝えた由来から詳しく解説して頂きました。韓国は悲しいことに戦が多かったために史実の詳しい記録はあまり残されておらず、摩羅難陀が中国の東晋滞任後、訪れた最初の地は百済ではなく全羅道の法聖浦（ホプソンポ）、という説が有力で現在に至っている、そして最初に建造されたのがこの佛甲寺なのですが、百済が滅びて焼失し 740 年頃再建されたにもかかわらず、慶長の役の戦で70棟もあった東屋は焼失し、唯一残った東屋のみ現在も残されているとの貴重なお話も伺うことが出来ました。宿泊地の扶余では、元扶余郡庁観光課長の尹洪植（ユンホンシク）先生、大邱からは韓日親善交流会長の徐彰教（ソチャンギョ）先生がかけつけてくださり、晚餐会のひとときをご一緒して頂き、翌日は扶蘇山・定林寺などを一緒に歩いて案内して頂きました。その時、両先生が何気なくこんなことをおっしゃったのです。「私達は、親日家とよく言われるが、親日とも親韓とも思っておりません。日本を愛し、韓国を愛する人、愛日・愛韓なのです。」その瞬間、皆の心がひとつになったのか拍手が沸き起こりました。また、4日間を通して日比谷高校の武井先生にも大変お世話になりました。訪韓歴が何と 67 回目と伺ってびっくりしましたが、各地で解説して頂いた中でも、韓国は木材が豊富ではないので花崗岩を加工した石塔が多く作られるようになり、その技術を駆使して摩崖仏も彫られた、とのお話は興味深く聞かせて頂きました。

出発前の説明会から貴重な資料を準備してくださり、各地の仏像芸術を詳しく解説して下さった宮崎先生。先生にはかつて、名古屋市博物館で「パキスタン・ガンダーラ彫刻展」「インド・マトゥラー彫刻展」も案内して頂いたことがあります。仏教全般に無知な私に、仏陀・ストゥーパ等の言葉の意味からアショカ王の時代のお話など熱心に語って下さいました。いつの日か失礼ながらも「先生は、敬虔な仏教徒？」と伺ってしまったことが有ります。否定をされましたが、先生の日常を紹介しますと、阪神大震災の時には1年近くもボランティアリーダーとして現地入りされ、昨年の中越地震も出かけられたと伺い、思わず「ボランティアって若い人達がされるんじゃないの？」と問いかけたら「リタイア組のほうが、時間に余裕があるからね。」と事も無げにおっしゃるのです。また、亡くなられた中井様の遺志を継いで金城大への留学生の面倒もみておられ、事務局会議では後藤幹事の良きアドバイザー役を務められ、会報の印刷等も率先してお手伝いされている方なのです。先生には何のお返しも出来ませんが、せめて残りの人生、先生ご自身も感激された瑞山磨崖三尊仏の柔和な微笑みを忘れず、より人間らしく生きていくことでご恩返しをするしかないかな、と思うのです。

今回も綿密な計画のもと素晴らしい旅を企画して下さった後藤幹事。旅行社が口をはさむ余地なしで、まさに脱帽のひと言でした。その後に計画されたシニアの方の野遊会でも、幹事の骨身惜しまず自ら率先して企画・

行動されるお姿には、思わず感動してしまいます。

旅行中、思いがけないお話で皆を沸かせて下さった安田様・神谷様、大金を預かって下さった伊藤義郎様・加藤様、戦争時代のリアルな体験談や番組制作時のご苦労話を語って下さったNHK・OBの皆様、各地の澄み切った青い空高く飛ぶ・韓国の国鳥「カササギ」を教えてくださいました田口様、素晴らしい写真撮影をして下さった長澤様、行く先々で韓国語の手助けをして下さった梅田様ご夫妻、初参加され帰国後すぐに入会して下さった鈴木様、京都からご参加くださり数々のアドバイスを頂いた金岡様、一人ぼっちの私と同じ部屋に泊まって下さった岩下様、本当にお世話になりました。お陰様で、5年ぶりの韓国は故郷のようになつかしく、泣けるほど優しく微笑みかけてくれました。

※ 旅行費用の収支につきまして、最近のウォン高の影響もあり追加徴収せねばならないのでは、と心配をしておりましたが、お陰様で現地でお世話になった諸先生方の宿泊費用やお土産代も全て賄うことが出

来ました。簡単ですが、ご報告申しあげます。

회원 마당

会員の広場

○「ソウル・トッポギ修行」記 ————— 会員：竹中 志保美

こんにちは。ご無沙汰いたしております。私は、昨年の7月末～今年の7月末まで、一年間、韓国へ行っており、2回目の韓国修業をして、日本へ戻って参りました。韓国はとても暑かったのですが、韓国と同じくらい日本も暑いですね。今回の韓国修業も、先回と同じく、韓国料理の「トッポギ」を学びに行きました。お世話になった、トッポギ屋のおばあさん、おばさん達が、出迎えてくれました。年々、新堂洞のトッポギタウンは、お客さんが減ってきて、平日の昼間は、ほとんどお客さんが居ない状態でした。私のトッポギ屋での勤務時間帯も、昼間から夜中の時間帯に変わってしまい、夕方から明け方までの勤務になったため、身体が付いて行かなくなり、働き出して、3ヵ月でそのトッポギ屋を辞めてしまいました。

辞めてからしばらくは、身体を休めたり、南山へ登ったりして、気分転換をしていました。韓国で知り合った人に、次の仕事を紹介してもらえることになり、韓国の有名デパートである、ロッテデパートで働くことが出来ました。ロッテデパートでは、地下一階の、食料品売り場で働いておりましたが、ここ何年かの間に、日本の観光客が実に多く増えたことを改めて実感しました。これからも、もっと両国の交流が盛んになり、良いところを伝えて、認め合って行ければと思っています。

先日は、事務局会議とさかな市場での懇親会で、会の皆様と久しぶりにお会いできて、嬉しかったです。韓国へ行ったり来たりして、なかなか会に参加できず、恐縮していましたが、事務局長さんのお声を掛けで、先日参加することが出来ました。12月18日の交流会で、韓国でトッポッキの修業をしてきた成果を発揮する機会を得ることが出来、嬉しいです。多くの方に、トッポッキの料理・味を知っていただくことで、私の意志が伝われば...と、と思っています。トッポッキを始め、韓国料理に関心を持っています。トッポッキは、若い人達に人気があり、屋台で食べる代表的な食べ物ですが、私が目指しているのは、一つの鍋に、野菜やラーメンなどを一緒に入れて食べる栄養やボリュームのあるトッポッキです。

12月18日の交流の夕べでは、是非、率直な意見をお願いします。

서울 통신

韓国光明市在住 二日市 壮さんのソウル便りです。

韓国 在住生活を基盤として幅広くご活躍されておられるレポートです。
今後とも期待しております。

○早くも次期大統領候補取りざた

地方自治体を再編成へ ————— 韓国光明市在住 会員 二日市 壮

日韓友情年も、あとわずかとなり、2月3月の反日ムードで春や夏に行う予定が延期になっていた文化行事や交流行事が一斉に進められている。初めての宝塚歌劇団の公演、星組による「ベルサイユのばら」がソウル慶熙（キョンヒ）大学「平和の殿堂」で11月11日から3日間行われたほか、チョン・ミョンフン指揮の東フィルの演奏会が5都市で行われた。

心配された小泉首相の靖国参拝による反発は、今回、意外と表面化しなかった。この問題で韓国には、あきれと、あきらめに似たムードがあると考えるのは底の浅い分析で、小泉首相の計算どおりになった部分と、反日感情がより深まった部分がある。小泉任期はあと1年とされているが、後継候補一番といわれる安倍官房長官もが靖国参拝派なので、韓国としても対日外交戦略の練り直しを迫られている。

さて盧武鉉政権は任期後半に入った。釜山でのAPEC会議で議長を務めても国民の人気はいつこうに盛り上がらない。去年春の総選挙で当選した与党ウリ党の議員が次々に選挙違反が確定して失格し、その穴を埋める補欠選挙（正確には再選挙）で1議席もとれず、過半数を割った状態が続いている。これを打開しようと、最大野党のハンナラ党に呼びかけた連立政権も相手にしてもらえなかった。

こうした中で、早くも次の大統領選挙の候補が取りざたされている。韓国は憲法で大統領の再選を禁じているので、盧武鉉さんの出番はない。夕刊紙、文化日報が10月30日に行った世論調査によると、もっとも人気があるのは高建（コ・ゴン）前国務総理で28.4%、2位は野党ハンナラ党の朴槿恵（パク・クネ）代表と李明博（イ・ミョンバク）ソウル市長が同率の21.4%、4位が与党ウリ党の鄭東泳（チョン・ドンヨン）統一部長官だが、一桁の7.8%だった。

このうち高建前国務総理は今年67歳、ソウル出身、ソウル大卒のエリートで、華やかな履歴だ。軍事政権下、37歳の若さで全羅南道知事（当時は中央政府による任命制）、大統領府政務担当首席補佐官、交通部（日本の運輸省にあたる）長官、農水産部長官、国会議員、内務部長官、ソウルオリンピックのときのソウル市長（任命制）、金泳三政権で首相、盧武鉉政権でも首相、とくに盧武鉉大統領が国会で弾劾訴追を受けたのにもなって、大統領代行も務めている。調整にたけた行政の達人といわれ、政治家の信頼も厚い。

ハンナラ党の朴槿恵代表は、朴正熙元大統領の長女、去年春の総選挙で、ハンナラ党の急落を食い止め、その後、党勢を盛り返している。政治的勘にたけ、女性や低所得層に人気がある。しかし最近、急速に支持を上げているのが李明博ソウル市長だ。清溪川（チョングチョン）の復元で支持度を高めている。現代建設の社員から社長になり、国会議員をへて、ソウル市長に立候補・当選し、市庁舎前に芝生広場の建設、バスと地下鉄の乗り継ぎ制度、バス中央車線化によるスピードアップなどなど、わずかの間に目に見える効果を上げ、来春の市長選には出ず、大統領選を狙う。

これらに比べて、本人は副大統領（そういうポストはない）気取りだが、人気が上がらないのが鄭東泳統一部長官。民放MBCの元キャスターだ。

こうした情勢で、次はハンナラ党政権に替わる雰囲気もあるが、前回、ほとんど無名の盧武鉉さんが当選したことを考えると、まだまだ先は分からない。

次は自治体再編成の話。韓国は現在、ソウル特別市と6つの広域市、9つの道の16広域自治体の下に、基礎自治体として72市・91郡・69区の232自治体がある。（自治区は広域市だけにある、中規模都市にある区は行政区）これについて、道は日本の植民地時代に作られたものであり、基礎自治体は規模が小さすぎて効率性や福祉などで問題を生じているという意見が強く、行政自治部と与野党は今年4月、2010年の地方選挙までに現在の自治体の再編成を行うことで合意したと発表した。

それによると、与野党とともに今の道をなくしソウル特別市は残す。そしてウリ党案では人口100万以下の広域市60に再編成、ハンナラ党案では人口200万以下の広域市70に再編成し、その下に市郡区を自治体ではなく行政単位とすることになっている。いずれにしても現状ががらっと変わる革命的な発想である。

具体的な線引きは示されていないが、日本だとこんなことで政府与野党が一致することは考えられない。明治以来の自治の歴史と住民の強い抵抗があるからだ。ところが韓国は違う。そもそも地方自治は始まったばかりといえる。1948年の大韓民国樹立とともに始まった地方自治は、61年5月の軍事クーデターで停止される。30年後の91年6月にまず地方議会が復活、95年6月からようやく首長と議員の選挙が同時に行われるようになった。だからまだ10年あまりしかたっていない。

こうした中で今年7月27日、済州島で国際自由都市にするための住民投票が行われ、近い将来、基礎自治体をなくすことに同意した。近く済州市と北済州郡、西帰浦市と南済州郡が合併する。国会で済州道を特別自治道にする特例法が成立すれば、広域自治体である済州道だけが残って、基礎自治体は廃止される。単なる行政単位となる2つの市の市長は、道知事が任命するという路線が固まった。

投票率36.7%、賛成率57%だった。これに対して反対の声は元知事ぐらいで、とくに住民の動きは伝えられていない。これを見ても自治体の大再編成はいずれ実現すると考えられる。

ソウル新名所を手短にご紹介したい。▽10月28日に開館した竜山（ヨンサン）の国立中央博物館＝世界6位の大きな建物。鉄道公社京元（キョンウォン）線と地下鉄4号線の二村（イチョン）駅下車5分。▽復元された清溪川＝朝鮮王朝時代の小川の上にコンクリートのふたの道路、さらにその上に高架道路が覆い被さっていた光景を思い浮かべながら、5.8キロ下流の博物館までの散歩コース。地下鉄5号線光化門（クァンファムン）駅、1号線 鍾閣（チョンガク）駅か1号線2号線市庁（シチョン）駅下車、東亜日報本社前から。▽バス中央車線化＝去年7月から始まったソウル市の交通改革の進み具合が分かる場所＝鉄道公社京釜線（通称地下鉄1号線）と地下鉄2号線新道林（シンドリム）駅下車西側の京仁（キョンイン）国道、バスが交通渋滞なく、すいすいと走っている。最後にひとこと、キムチは大丈夫。私は11年余、韓国でキムチを食べ続けているが、いまだに問題なし。むしろ今回の騒ぎでさらに改善されたはず。心配せずに韓国の心を味わってください。



◇お知らせ・紹介

この欄は、会員の皆さんへ各種ニュースや1～3ヵ月先のイベントのお知らせや、その他もろもろの紹介をしていきます。会員の皆さんからの情報も待っています。

1) 第41回 留学生の夕べ

愛知県下の大学で学ぶ留学生と市民との交流会。留学生の料理屋パフォーマンスを楽しみ交流する。毎年、韓国人留学生も参加していますので、お時間のある方は是非お出かけください。

日時 : 平成17年12月10日(土) 12:30～20:00

開催場所 : 名古屋国際センター別棟ホール 名古屋市中村区那古野1丁目47-1

参加費用 : 一般1,000円 学生500円

主催者名 : 愛知留学生会

問合せ : 名古屋国際センター交流協力課

電話番号 : 052-581-5689 FAX : 052-581-5629

ホームページ : <http://www.nic-nagoya.or.jp/>

2) 「日韓友情年 2005 桑名・雅楽演奏会」

高麗楽（こまがく）は、朝鮮半島から 1300 年前に日本に伝来して、雅楽の右方舞楽曲として再構成されて現在まで継承されております。桑名地方においても、江戸時代まで多くの高麗楽が奏舞されて、桑名松平家には高麗舞楽面が現在も多数残されています。

今回は、高麗楽を講演会にて解説の後に演奏して、御参加された方々にお楽しみいただくとともに、先人の朝鮮半島における交流に感謝しながら、日韓友好を深めたいと思います。

日 時：2005 年 11 月 27 日（日）

会 場：11:00－ 多度大社（三重県桑名市多度町多度 1 6 8 1）にて奏楽、
14:00－ 六華苑（桑名市大字桑名字鷹場 6 6 3 番の 5）にて講演及び奏楽

【講演】

東京芸術大学大学院 鳥谷部輝彦 ー古代朝鮮に由来する日本伝承の舞楽ー

【演奏】

多度雅楽会 ー演目 右方舞楽のうち高麗楽の 3 曲ー
納曽利（なそり）高麗壹越調 小乱声/破/急
林歌（りんが） 高麗平調 高麗乱声/音取/当曲
登殿楽（とうてんらく） 高麗双調 音取/当曲

編集後記

(2005/11/11)

会報 No. 31 をお届けします。11 月に入って急に寒くなりましたが、皆様お元気でしょうか？早いもので今年も、もう間もなく終わります。毎年、冬の交流の夕べの準備の話が出ると普段なかなか会えない会員の方々と再会できるなあと思いながら何人かの顔が頭に浮かびます。今年は特に韓国でトッポギ修行をしてきた竹中さんの手作りトッポギが食べられるということでとても楽しみにしております。

池貴己子さんのイラストは、NHK ラジオ講座 1995 年度から、韓国の古典を題材としたものです。

編集：早川 潤 〒472-0002 知立市来迎寺町木ノ根田 10-4
TEL/FAX 0566-82-5466 MAIL junhykw@pop12.odn.ne.jp